

# まるでクモ 動き軽やか

全国の高等専門学校生が、東京電力福島第1原発の廃炉作業に使える自作ロボットの技を競う「廃炉創造ロボコン」で、合志市の熊本高専熊本キャンパスがイノベーション賞に選ばれた。「今までにないクモ型ロボット。コンパクトで完成度が高い」と評価された。

## 「廃炉ロボコン」イノベーション賞 熊本高専

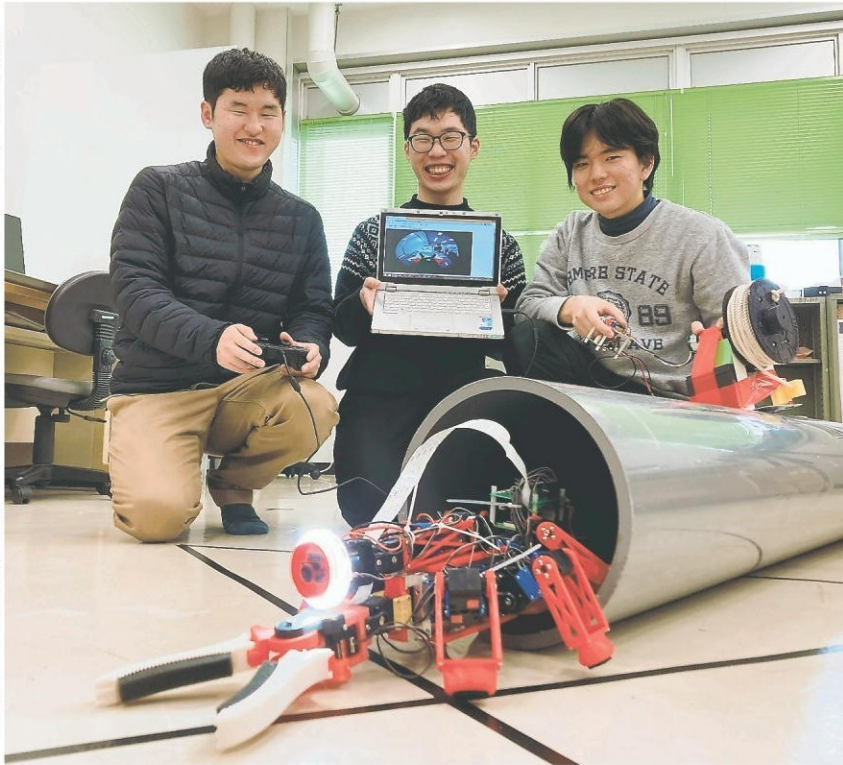
日本原子力研究開発機構などが主催し、全国の13高専から14チームが出場した。原子炉建屋から熔融核燃料（デブリ）を取り出す作業を想定し、遠隔操作でデブリに見立てたボールなどを回収する競技。各チームは10分の制限時間で、速さや正確さを競った。

新型コロナウイルス感染防止のため、事前に提出された動画で審査。24日に結果が発表された。

熊本高専のロボットは、制御情報システム工学科5年の神崎修一

さん、荒木駿佑さん、中村維<sup>い</sup><sub>ぢ</sub>がさんが昨年5月から7カ月かけて製作した「ロボダーマツ！」（全長56センチ）。前後左右に自在に動き、前方のハサミ状の部分で物をつかむことができる。転倒しても起き上がり、姿勢制御に優れた点も認められた。

3人は「競技にこだわらず、幅広く活用できるよう考えた。今後も災害用など実用的なロボット開発に向け技術を高めたい」と喜んだ。（木村恭士）



「廃炉創造ロボコン」でイノベーション賞を受賞した熊本高専熊本キャンパスのロボットと、製作した（左から荒木駿佑さん、中村維<sup>い</sup><sub>ぢ</sub>さん、神崎修一さん）

合志市